

雜 報

人 事

<p>岡山醫科大學教授 上坂 熊 勝 岡山醫科大學長田中文男海外出張中學長事務代理ヲ 命ス (五月十八日) 十級俸下賜 衛生技師 武波 晋一 (四月二十七日) 第十七驅逐隊軍醫長 廣川 濟 海軍軍醫大尉 兼補第十四驅逐隊軍醫長 第二十七驅逐隊軍醫長 眞玉三治郎 海軍軍醫大尉 佐世保鎮守府附被仰付 (五月二十五日) 敘從四位 正五位勳三等 小南又一郎 (四月十五日) 京都帝國大學教授 小南又一郎 陞敘高等官一等 岡山醫科大學助教授 筒井 德光 (六月一日) 陞敘高等官六等 海軍燃料廠醫務部部員 三宅 正一 海軍軍醫大尉 吳海軍病院部員兼副官 林 成道 海軍軍醫學校高等科學生被仰付 第十五驅逐隊軍醫長 西田 實雄 海軍軍醫大尉 補第一遣外艦隊司令部附 (六月一日) 敘從五位 正六位 赤井左一郎 (六月一日) 岡山醫科大學學生主事 田川 蟬太郎 兼岡山醫科大學助教授 免本官專任岡山醫科大學助教授 (六月六日) 岡山醫科大學助教授 田川 蟬太郎 本俸七級俸下賜 職務俸金六百圓下賜 (六月六日) 步兵第六聯隊附陸軍一等軍醫 清水 伸 補步兵第十聯隊附 (六月十二日)</p>	<p>吳海軍病院部員海軍軍醫大尉 中村 博郷 兼補吳海軍病院副官 (六月十二日) 吳防備隊軍醫長兼分隊長吳 栗 栖 幸 穂 海軍病院部員海軍軍醫少佐 補橫須賀海軍工廠醫務部部員兼造船部部員 (六月十五日) 支那駐屯軍司令部附 西村 慶次 陸軍一等軍醫 補羅南衛戍病院附 (六月十八日) 鐵道醫 山口 龍 契 年俸三千四百圓下賜 (六月二十日) 岡山醫科大學助教授 關場代五郎 本俸四級俸下賜 岡山醫科大學助教授 關場代五郎 依願免本官 (六月二十一日) 松尾 義 雄 任岡山醫科大學助教授 敘高等官七等 岡山醫科大學助教授 松尾 義 雄 本俸十一級俸下賜 職務俸金四百五十圓下賜 (六月二十二日) 京都帝國大學總長從三位勳二等 荒木 寅三郎 岡山醫科大學長從四位勳三等 田 中 文 男 岡山醫科大學教授正四位勳三等 上坂 熊 勝 京都帝國大學教授正五位勳四等 小南又一郎 (各 陸軍一等軍醫正六位 正木 豊 陸軍一等軍醫從六位勳五等 金光 三郎 通 陸軍一等軍醫正從五位勳三等 荻本 快吉 陸軍軍醫監正五位勳三等功五級 出射 一郎 陸軍一等軍醫從六位 柴 英 雄 陸軍一等軍醫正七位 小出 宗次 陸軍一等軍醫正七位 森 定 惠</p>
---	---

陸軍二等軍醫正正六位勳四等 高原 來 二
 陸軍一等軍醫正七位勳六等 大 田 澄
 陸軍二等軍醫從七位 安 田 常 男
 陸軍二等軍醫從七位 永 山 太 郎
 陸軍二等軍醫正正六位勳六等 平 川 龍 造
 陸軍三等軍醫正從六位勳四等 杉 山 龜 之 助
 陸軍三等軍醫正正六位勳四等 齋 藤 清
 陸軍一等軍醫正七位勳五等 小 竹 豐
 陸軍一等軍醫正從五位勳三等 奥 宮 松 枝
 陸軍二等軍醫正正六位勳五等 太 田 九 三 男
 (各 陸軍三等軍醫正正六位勳四等 野 田 諦 俊
 陸軍一等軍醫正七位勳五等 高 原 武 一
 陸軍三等軍醫正從六位勳五等 山 中 茂
 通) 陸軍一等軍醫正七位勳六等 吉 永 義 雄
 陸軍一等軍醫正七位 赤 堀 茂 樹
 陸軍一等軍醫正七位 大 橋 要 人
 陸軍三等軍醫正從六位勳四等 山 田 昇
 陸軍三等軍醫正從六位勳六等 矢 野 義 德
 陸軍一等軍醫正七位 川 北 伊 勢 吉
 陸軍一等軍醫正七位 佐 藤 一 衛
 陸軍二等軍醫從七位 脇 田 豐
 陸軍一等軍醫正七位 丹 原 曉 夫
 陸軍二等軍醫正正六位勳四等 矢 澤 弘 水
 陸軍二等軍醫正正六位勳五等 三 宅 幹 夫

陸軍二等軍醫正從五位勳三等 片 山 雄
 陸軍三等軍醫正從六位勳四等 石 井 義 章
 陸軍一等軍醫正七位勳五等 田 村 權 五 郎
 陸軍二等軍醫從七位 久 保 田 正 治
 陸軍三等軍醫正正六位勳四等 松 原 愛 次 郎
 陸軍三等軍醫正從六位勳四等 長 田 祖 村
 陸軍二等軍醫正正六位勳五等 尾 崎 文 七 郎
 陸軍一等軍醫從六位勳六等 井 原 愛 雄
 陸軍二等軍醫從七位 跡 部 鐵 朗
 陸軍三等軍醫正從六位勳四等 平 野 林
 (各 陸軍二等軍醫從七位 得 能 倫 二
 陸軍一等軍醫正七位 毛 利 明 弘
 陸軍一等軍醫從六位勳六等 小 橋 納 一 郎
 陸軍一等軍醫正七位 大 屋 音 市
 陸軍一等軍醫正七位 岸 本 春 榮
 陸軍一等軍醫正七位 西 村 慶 次
 陸軍一等軍醫正七位 清 水 伸
 海軍軍醫大尉從六位勳六等 伊 藤 慎 一
 海軍軍醫大尉正七位勳六等 林 成 道
 海軍軍醫大尉正七位 木 村 芳 男
 海軍軍醫中尉從七位 西 田 實 雄
 昭和三年勅令第百八十八號ノ旨ニ依リ大禮記念章ヲ
 授與セラル

(三年十一月十六日)

○丸山一郎君 多年岡山醫科大學産婦人科教室に勤務し居られし同君は今般其職を辭し旭川市二條通向井病院産婦人科醫長として就職せられたり

○天野保君 は豫て岡山醫科大學泉外科教室に勤務し居られしか今般同教室を辭し大分縣高田町桑原醫院に勤務せられたり

○横山丈夫君 は豫て岡山醫科大學柿沼内科教室に於て研究中なりしか今般島根縣今市町出雲製織株式會社今市工場醫局に勤務せられたり

○金光康生君 は兼て岡山醫科大學眼科教室に勤務し居られした今般福島市福島病院眼科に轉勤せられたり

○蓮池堯民君 豫て岡山市立診療所長として就任中の同君は今般都合により辭職歸郷せられたり

○藤田富豐君 は豫て岡山市立半田療養所に勤務し居られしか今般蓮池堯民君の後任として岡山市立診

療所長として轉勤せられたり

- 高月 賢一君 は今般岐阜市外鐘淵紡績會社を辭し本縣小田郡中川村大字淺海に於て開業せられたり
- 長谷雄三郎君 は豫て岡山醫科大學小兒科教室に於て研究中なりしか今般岡山市片上町に於て開業せられたり
- 村山 富治君 は豫て新築中なりし東京市日本橋區本石町三丁目一四の醫院落成せしを以て同所に移轉せられたり
- 三宮 信彦君 は今般高知市水通町下一丁に移轉開業せられたり
- 金 遠 熙君 は今般朝鮮咸北道清津府新岩洞九三、太乙醫院に移轉せられたり
- 西尾修五郎君 は今般大阪市南區鹽町通二丁目三三に移轉せられたり

神谷英典君逝く 君は大正九年岡山醫學專門學校を卒業し暫く神戸市齋木病院に勤務し後愛知縣知多郡野間村に於て開業し居られしか去月四日逝去せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

奥山周達君逝く 君は明治三十年第三高等學校醫學部を卒業し郷里奈良縣三輪町に於て開業し居られしか去月三十一日病氣を以て遽逝せられたりと寔に痛惜に堪へず茲に謹みて弔意を表す

吉武權一君逝く 君は明治四十年岡山醫學專門學校を卒業し陸軍軍醫となり大正六年退官し山口縣美祿郡岩永村に於て開業し居られしか本年二月二十三日病を以て永眠せられたり寔に哀悼に堪へず謹みて弔意を表す

◎武田縫次君略歴 本誌前號記載の岡山醫科大學助教授に任せられたる武田縫次君の略歴は左の如し

大正11年5月岡山醫科大學附屬醫學專門部醫科を卒業シ岡山醫科大學副手ヲ囑託セラレ附屬醫院小兒科勤務ヲ命セラル

同14年3月岡山醫科大學助手ニ任セラル

昭和2年3月小兒科學講師ヲ囑託セラル

同4年3月岡山醫科大學附屬醫院醫員ヲ囑託セラレ今日ニ至ル

◎松尾義雄君略歴 別項の如く岡山醫科大學助教授に任せられたる同君の略歴は左の如し

大正13年東京帝國大學醫學部ヲ卒業シ同大學副手ヲ囑託セラレ同附屬醫院勤務ヲ命セラル

同14年東京帝國大學助手ニ任セラレ附屬醫院勤務ヲ命セラル

昭和2年2月岡山醫科大學眼科學講師ヲ囑託セラル

同4年3月岡山醫科大學附屬醫院醫員ヲ囑託セラレ今日ニ至ル

◎學位授與 榑原亨、大谷顯三、大森精一の3君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが榑原君の論文は本年5月6日、大谷、大森兩君のは同月27日の教授會を通過し本月6日榑原君に同月18日大谷、大森兩君に醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

榊原 亨君の分

主論文

脾臓灌流ニ據ル實驗的研究 (日本外科學會雜誌第29回第8, 9號ニテ發表ス)

參考論文

1. 「ビリルビン」形成部位竝ニ其臨牀的意義ニ就テ (岡山醫科大學學府第2號ニテ發表ノ豫定)
2. 晩期急性汎發性腹膜炎ノ糞囊設置術ニヨル治癒成績ニ就テ (東京醫事新誌第2599號ニテ發表ス)
3. 異常ノ部位ヲトレル盲腸及ビ蟲様突起炎ノ1例ニ就テ (日本外科學會雜誌第26回第10號ニテ發表ス)
4. 稀有ナル副脾ノ1例 (臨牀醫學第17年第1號ニテ發表ス)
5. 副腎及ビ脾臓ノ機能的相互關係ニ就テ (日本病理學會々誌第16年ニテ發表ス)
6. 肝臓内「ビリルビン」形成ノ部位ニ就テ (東京醫事新誌第2610號ニテ發表ス)

大谷 顯三君の分

主論文

「インシュリン」ニ關スル研究

- 其1. 肝臓及ビ筋肉ニ於ケル糖原質形成ニ及ボス「インシュリン」ノ影響ニ就テ (本誌第40年第4號ニテ發表セリ)
- 其2. 加糖リンゲル氏液ヲ以テ灌注セル剔出心臓ニ及ボス「インシュリン」ノ影響 (本誌第41年第2號ニテ發表ス)

參考論文

1. 「メリア」球根ノ體內利用ニ就キテ (本誌第41年第3號ニテ發表ス)
2. 酵素作用ニ及ボス磁場及ビ壓力ノ影響 (本誌第41年第4號ニテ發表ス)
3. 簡易ナル色盲検査製作法 (實驗眼科雜誌第10年第63號ニテ發表ス)

大森 精一君の分

主論文

肝臓損傷竝ニ「ヘパトトキシン」ト含水炭素新陳代謝トノ關係

- 其1. 肝臓ヲ損傷セル家兔ノ血糖量ニ及ボス「インズリン」ノ作用ニ就キテ (昭和4年8月實驗消化器病學雜誌ニテ發表ノ豫定)
- 其2. 「ヘパトトキシン」ノ肝臓ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究 (昭和4年4, 5月實驗的消化器病學雜誌ニテ發表セリ)

參考論文

1. 黃疸出血性「スピロヘータ」病患者血液ノ殘餘窒素量ニ就テ (大正13年5月東京醫事新誌第2368號ニテ發表セリ)

2. 「アドレナリン」過血糖症ニ糖尿ニ就テノ臨牀的觀察、特ニ之ト肝臟疾患トノ關係ニ就テ（大正15年12月實驗消化器病學雜誌第1卷第9號ニテ發表ス）
3. 所謂流行性腦炎及ビ其後遺症患者ニ就テ爲セル肝臟機能検査ノ成績ニ就テ（昭和2年4月本誌第447號ニテ發表ス）
4. 脚氣知見ニ關スル二三ノ追加（田川、原、大森共著）（大正13年8月本誌第415號ニテ發表ス）
5. 胃液ニ關スル二三ノ臨牀的研究（中野、大森共著）（昭和3年4月實地醫家ト臨牀第5巻第4號ニテ發表ス）

◎**學位論文通過** 大熊泰治君は豫て論文を東京帝國大學醫學部に提出し學位を請求し居られしか5月25日の教授會を通過したり其主論文は左の如し

大脳皮質纖維結合ニ關スル實驗的研究

石井榮兒君は論文を大阪醫科大學に提出し學位を請求し居られしか本月16日の教授會を通過したり其主論文は左の如し

抱合體「グルリロン」酸ニ關スル藥物學的研究

◎**岡山醫科大學火災** 去る5月29日午後9時55分岡山醫科大學醫化學教室より出火し、實習室（研究室、「エーテル」室、助教授室、蒸餾室、分析室、暗室、天秤室、講義室）1棟を全燒し同11時20分鎮火せり、原因、損害等は目下取調中なり